

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号	58
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇ 特別活動	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、生徒とも学校行事は盛んであるとの認識が高い。 ・部活動については、非常に活発であるとの認識が高い。 ・両校舎の特性を生かした生徒会活動を行っている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇統一生徒会活動・行事の充実と、部活動のさらなる活性化。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を含めた、部顧問による指導体制の充実。 ・部顧問、講師の適正配置。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 統一生徒会活動の充実 (2) 部活動の活性化、1年生部員へのサポート	(1) 統一生徒会活動の交流活動数の増加 (2) 部活動加入生徒数の増減	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動、制服着こなし推進運動の統一活動。 ・文化祭、ひのう祭の日程調整による両校舎交流。 ・対面式、部紹介の合同実施。 ・部活動時間の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ①両校舎生徒会の交流活動 ②両校舎行事の交流 ③部活動の活性化 	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○統一生徒会として、挨拶運動など交流することができた。 ○対面式、部紹介を合同で実施することができた。 ○文化祭、ひのう祭の開催期日に配慮し、両校舎の相互交流ができた。 ●全体的にはレベル向上のが見られるが、一部の部活動での大量退部など、弱小化する部活動がある。 	
12 来年度に向けての改善方策案 統一生徒会活動、生徒会行事が充実してきた。更なる交流活動の充実を図りたい。 一方で、学校全体のレベルが向上し、放課後実習や早朝・放課後の補習活動が最優先され、両校舎の生徒がそろって部活動することが難しい部活動が増えてきた。1年生が全員加入を原則としていることを重視した教育体制の改善が必要である。		

II 関係者評価

実施年月日：平成23年1月25日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの生徒も明確な目標を持っていることに感心した。各学科や部をはじめとする立派な取り組みが新聞等で数多く報道され、一人の卒業生としても大変嬉しく思う。 ・部活動等全国レベルで活躍する生徒達に対して、OBや地域住民の立場から支援する仕組みがあると良い。 ・先輩から後輩へと良い取り組みが引き継がれている。学校の教育方針がどの生徒にも伝わっていると感じた。

※ 領域ごとに、1～2枚でまとめる。

※ 公表文書ということを踏まえ、具体的に分かりやすい表現で、簡潔にまとめる。

【別添2】(様式例2)

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 (記入上の注意)

岐阜県立〇〇高等学校

学校番号

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) (2) (3)	※ 領域・分野例 「教育課程・学習指導」「進路指導」「生徒指導(教育相談)」「特別活動」「保健管理」「安全管理」「組織運営」 「研修(資質向上の取組)」「教育目標・学校評価」「保護者、地域住民などとの連携」「情報提供」「教育環境整備」等 (注) 上記すべてについて作成する必要はない		
2 評価する領域・分野	◇			
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・	※ 学校評議員の意見や「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の結果等を活用し、領域について現状分析をする。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇	※ 現状分析から明らかになった喫緊の学校課題を受けて、今年度、重点的に取り組む目標を設定する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・	※ 喫緊の学校課題を解決するため、学校長がリーダーシップを発揮することができる学校組織マネジメントの活用。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) (2)	※ 県立学校リーダーズプランで実施する活動を記すことも可能。		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
				(1) (2)
				※ 数値目標に限定する必要はない。
8 取組状況・実践内容等	・	9 評価視点	10 評価	
※ 評価視点は、3～4項目を原則とする。 (例) 学校組織マネジメントが十分機能し、職員が組織的に取り組めたか。	① ② ③	※ 評価に当たっては、以下の基準を参考とする。 A：十分達成した B：おおむね達成した C：やや不十分 D：不十分	A B C D A B C D A B C D	
11 成果・課題	○ ○ ●	※ 成果と課題が明確に分かるように、工夫して書く。 ○→成果 ▲→課題		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案		※ 自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策(参考)留意する3つの観点：①手立て ②見通し ③根拠		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成 年 月 日

【意見・要望・評価等】

※ 学校関係者評価を実施する上で、必要な事務は学校が行い、学校関係者評価報告書(本紙)をとりまとめる。
 ※ 学校関係者評価委員会としての具体的な意見・要望なども記載する。
 ※ 学校関係者評価は、学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価することを基本とする。
 ◇具体例「自己評価の結果の内容が適切かどうか」「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか」「学校の重点目標や自己評価の評価項目などが適切かどうか」「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」等

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校 学校番号 58

I 自己評価

1 学校教育目標	社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2 評価する領域・分野	◇保健厚生		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年度、保護者の肯定評価が低く（67 %）、否定評価が高かった（18 %）「地震や台風などの場合の対応について、生徒や保護者（地域）に対策マニュアルが知らされている。」の項目は、昨年度肯定評価77 %、否定評価11 %と、評価が向上した。本年度は肯定評価は77 %と昨年度と同じであったが、否定評価が13 %と微増した。 ・一方、同項目に対する生徒の評価は、昨年度肯定70 %・否定17 %と低かったが、本年度は肯定80 %・否定10 %と大幅に評価が向上した。本年度は、生徒への周知を徹底させるため、生徒を通じて保護者に『危機管理マニュアル』を配付したが、そのことが奏功したと思われる。 <p style="margin-left: 20px;">しかし、生徒・保護者ともに、緊急時の対応の周知はまだ改善の余地があり、今後さらに対策を講じなくてはならない。</p>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇インフルエンザ対応マニュアル（生徒・保護者、教員）、危機管理マニュアル（不審者侵入・地震防災・台風対応）の周知徹底（特に生徒に対して） ◇生徒の自主的な健康状態の把握と健康管理		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・両校舎の保健厚生部と生徒指導部が一体となって推進		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
・危機管理マニュアルの広報	・アンケート結果		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルの作成、点検、整備 ・台風対応マニュアル（警報発令時における登下校について）と危機管理マニュアルの生徒を通じての保護者への配付と説明。 	①生徒はマニュアルを知っているか。 ②保護者はマニュアルを知っているか。 ③職員の危機対応意識は、高まったか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D	
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○危機管理マニュアルの整備や広報を進める中で、忘れがちな生徒・職員の危機意識が高まった。 ○危機管理マニュアルを生徒を通じて保護者に配付したことにより、生徒の周知度があがった。 ●危機管理マニュアルの保護者への周知がまだ十分ではない。 		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案			
生徒に対しては各種マニュアルについて、防災避難訓練時などで全校一斉に説明する。保護者に対しては、引き続き危機管理マニュアルを生徒を通じて配付し、生徒・保護者ともに周知を図るとともに、学校HPにも公開して、地域などへの周知も図る。			

II 学校関係者評価

実施年月日：平成23年1月25日

【意見・要望・評価等】

・（危機管理マニュアルなど）学校からの印刷物が保護者に届くかという設問の肯定評価がやや低いですが、これは家庭の問題であり、保護者の責任であると考えています。

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号	58
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇ 教 務	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者とも肯定的回答が8割を越え、統合後、両校舎共通理解の下、熱心に取り組んできた諸活動が認知され、浸透してきた。 ・授業の教え方や評価の仕方について、若干否定的評価が見られる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒が「考える・活動する・分かる」授業を実践するとともに、評価の方法について、生徒や保護者に認知されるよう努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部と教科、学科、学年との連携強化 ・両校舎教務部および定時制・通信制との連携 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 研修の復命、授業参観、授業評価の分析 (2) 「指導と評価の年間計画」、「シラバス」	(1) 全授業を対象とする授業公開への参加状況 (2) 前年度中の内容改訂と年度当初の配布・説明	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価
<ul style="list-style-type: none"> ・研究(公開)授業の実施、授業公開週間の計画、教科会議、校内研修会の実施 ・「シラバス」、「指導と評価の年間計画」の前年度中の内容改訂と年度当初の配布・説明 ・各学年・学科の目標と教育課程のあり方の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ①計画立案に組織的に取り組めたか。 ②目的を明らかにした職員への周知は図れたか。 ③取り組みが浸透しているか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○指導と評価の年間計画やシラバスは前年度中に改訂し、シラバスは各教科担任が最初の授業で配布、説明するよう改善して生徒に認知されてきた。</p> <p>○学科、学年との連携を図り、基礎基本の定着とともに応用学力をつけるための取り組みや、各学科とも実態に即した教育課程の編成に努めた。</p> <p>▲授業者に対する授業評価の集計、分析やそれを踏まえての教科会議、校内研修会など新たな取り組みが進んだが、さらに効果的な方策を検討したい。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<p>生徒が「考える・活動する・分かる」授業づくりを本年度、全校体制で授業改善に取り組み、確かに生徒に認知されてきたが、保護者等へ浸透をさらに進め、家庭との連携強化を図る。また、学習指導要領の改正に伴い、3課程、4大学科、2校舎という本校の最大の特徴を活かし、教育目標や各科の育てたい生徒像に沿った教育課程の編成、ぎふ総合型選択制科目の見直しなどを進める。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成23年1月25日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員となって3年目となるが、年々環境がよくなっていると感じる。トイレのきれいな状態や授業に臨む生徒の姿からは、内面からしっかりしているのだと感じる。ただし、もっと元気があってもいいのではないか。発問に対しての生徒の態度、指名されないと答えない授業中の生徒の様子を見ると、内面の良さを是非外面でも見せてほしいと感じた。(第1回評議員会より) ・授業や行事等を観せていただくたびに感じていたが、本日も「生徒が自慢の学校」であることを再確認した。本校での3年間の学習が将来の大きな力になるので、生徒には自信を持って頑張してほしい。

※ 領域ごとに、1～2枚でまとめる。

※ 公表文書ということを踏まえ、具体的に分かりやすい表現で、簡潔にまとめる。

【別添2】(様式例2)

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 (記入上の注意)

岐阜県立〇〇高等学校

学校番号

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) (2) (3)	※ 領域・分野例 「教育課程・学習指導」「進路指導」「生徒指導(教育相談)」「特別活動」「保健管理」「安全管理」「組織運営」 「研修(資質向上の取組)」「教育目標・学校評価」「保護者、地域住民などとの連携」「情報提供」「教育環境整備」等 (注) 上記すべてについて作成する必要はない		
2 評価する領域・分野	◇			
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・	※ 学校評議員の意見や「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の結果等を活用し、領域について現状分析をする。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇	※ 現状分析から明らかになった喫緊の学校課題を受けて、今年度、重点的に取り組む目標を設定する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・	※ 喫緊の学校課題を解決するため、学校長がリーダーシップを発揮することができる学校組織マネジメントの活用。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) (2)	※ 県立学校リーダーズプランで実施する活動を記すことも可能。		
7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	(1) (2)	※ 数値目標に限定する必要はない。		
8 取組状況・実践内容等	・	9 評価視点	10 評価	
※ 評価視点は、3～4項目を原則とする。 (例) 学校組織マネジメントが十分機能し、職員が組織的に取り組めたか。	① ② ③	※ 評価に当たっては、以下の基準を参考とする。 A：十分達成した B：おおむね達成した C：やや不十分 D：不十分	A B C D A B C D A B C D	
11 成果・課題	○ ○ ●	※ 成果と課題が明確に分かるように、工夫して書く。 ○→成果 ▲→課題		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案		※ 自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策(参考)留意する3つの観点：①手立て ②見通し ③根拠		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成 年 月 日

【意見・要望・評価等】 ・ ・ ・	※ 学校関係者評価を実施する上で、必要な事務は学校が行い、学校関係者評価報告書(本紙)をとりまとめる。 ※ 学校関係者評価委員会としての具体的な意見・要望なども記載する。 ※ 学校関係者評価は、 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価 することを基本とする。 ◇具体例「自己評価の結果の内容が適切かどうか」「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか」「学校の重点目標や自己評価の評価項目などが適切かどうか」「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」等
----------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号 58

1 学校教育目標	社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・携帯電話等の情報リテラシーの指導、人間としてのモラルやマナー指導、身だしなみの指導など、全般的に昨年同様の高い評価を受けた。しかし、まだ十分とはいえない状況であり、今後も教員の共通理解のもと継続的指導を実施。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇身だしなみ、挨拶や礼儀の指導の充実・情報リテラシーの醸成。 ◇教育相談的な問題を抱えている生徒に対する全職員の共通理解。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導部のリーダーシップの下の、学年、学科を中心とした全職員による指導。 ・生徒支援委員会、職員会議を通じて個々の生徒の情報共有。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 登下校時などにおける身だしなみ指導。 (2) 特別支援コーディネーターを中心とした、個々のケースに対応した柔軟な取組。 (3) 外部講師などによる職員研修の充実。	(1) 生徒の身だしなみや挨拶、来客への対応等で総合的に判断する。 (2) それぞれの生徒がベストの道を選択できるよう、最大限の援助ができたかで判断する。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会やMSリーダーズとタイアップして、毎朝登校時に、挨拶運動や身だしなみ指導を実施した。 ・本人の思いを大切にしながら、親と関係職員が連携を密にした上で、全職員による生徒支援体制の充実を図った。 ・情報モラル教育のためのLHRを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①全職員の共通理解の下に、積極的な生徒指導が行えたか。 ②生徒の中に自ら高めていこうという気持ちを醸成できたか。 ③複数の職員がそれぞれ役割を分担しながら、組織的に対応できたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○●生徒の身だしなみや挨拶について、外部から高評価が得られるようになるなど、着実に指導が結果として現れてきている。同時に、身だしなみについてはまだ問題がある生徒もおり、今後も粘り強い指導が必要である。 ○教育相談的な問題を抱えた生徒について、対応の結果は様々であったが、全職員で問題を共有しながら、考えられるベストの対応ができた。 ○朝のSHRから帰りのSHRまでの間、携帯電話の使用を禁止したが、生徒間のコミュニケーションが増え良い状態である。 ●不登校生徒に対する支援がまだ不十分であり、今後、更に職員間の共通理解を深め充実した指導、支援が必要である。 	
12 来年度に向けての改善方策案	生徒の自己教育力を高めるため、様々な規則などについて、その必要性や意味を生徒に考えさせながら、指導する。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成23年1月25日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内における携帯電話の使用制限の指導は、社会の情勢に合っており、共感できる。 ・突然の質問に対して、明確に解答できる様子、礼儀や所作が身につけている様子を目の当たりにし、本校教育の成果を垣間見た。 ・委員となって3年目となるが、年々環境がよくなっていると感じる。トイレのきれいな状態や授業に望む生徒の姿からは、内面がしっかりしていると感じる。

※ 領域ごとに、1～2枚でまとめる。

※ 公表文書ということ踏まえ、具体的に分かりやすい表現で、簡潔にまとめる。

【別添2】(様式例2)

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 (記入上の注意)

岐阜県立〇〇高等学校

学校番号

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) (2) (3)	※ 領域・分野例 「教育課程・学習指導」「進路指導」「生徒指導(教育相談)」「特別活動」「保健管理」「安全管理」「組織運営」 「研修(資質向上の取組)」「教育目標・学校評価」「保護者、地域住民などとの連携」「情報提供」「教育環境整備」等 (注) 上記すべてについて作成する必要はない		
2 評価する領域・分野	◇			
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・	※ 学校評議員の意見や「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の結果等を活用し、領域について現状分析をする。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇	※ 現状分析から明らかになった喫緊の学校課題を受けて、今年度、重点的に取り組む目標を設定する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・	※ 喫緊の学校課題を解決するため、学校長がリーダーシップを発揮することができる学校組織マネジメントの活用。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
(1) (2)	※ 県立学校リーダーズプランで実施する活動を記すことも可能。		(1) (2)	※ 数値目標に限定する必要はない。
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価		
・ ・ ・ ※ 評価視点は、3～4項目を原則とする。 (例) 学校組織マネジメントが十分機能し、職員が組織的に取り組めたか。	① ② ③	※ 評価に当たっては、以下の基準を参考とする。 A: 十分達成した B: おおむね達成した C: やや不十分 D: 不十分		
11 成果・課題	○ ○ ●	※ 成果と課題が明確に分かるように、工夫して書く。 ○→成果 ▲→課題		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	※ 自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策(参考)留意する3つの観点: ①手立て ②見通し ③根拠			

II 学校関係者評価

実施年月日: 平成 年 月 日

【意見・要望・評価等】 ・ ・ ・	<p>※ 学校関係者評価を実施する上で、必要な事務は学校が行い、学校関係者評価報告書(本紙)をとりまとめる。</p> <p>※ 学校関係者評価委員会としての具体的な意見・要望なども記載する。</p> <p>※ 学校関係者評価は、<u>学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価すること</u>を基本とする。</p> <p>◇具体例「自己評価の結果の内容が適切かどうか」「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか」「学校の重点目標や自己評価の評価項目などが適切かどうか」「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」等</p>
----------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号 58

I 自己評価

1 学校教育目標	社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけるとともに、創造性あふれた明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の情報提供に対し、充足感が得られている生徒が微増した。 ・進路指導に対する肯定回答の保護者の増加が見られなかった。 ・学校から発信された情報が保護者とあまり共有出来ていない。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 進路指導体制の確立と職員の情報提供能力の育成 進路実現に向けての意欲の喚起と実力の向上	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学科内で連携を図り、組織的に取り組んでいる。 ・学科間で連携を図って指導するための援助や情報の共有化を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学科別進路希望ガイダンスの実施 (2) 保護者会を開催	(1) アンケート調査を実施。 (2) 講師に参加生徒の反応などを聞く。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに進路希望別ガイダンスの実施。 ・就職希望の保護者会の実施 ・インターンシップの指導（事前・事後指導） 	① 質疑応答の内容とアンケート結果。 ② 出席者数と反応、質問内容。 ③ 発表態度と聴取生徒の反応。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○進学指導や資格取得、検定合格に向け、熱心に取り組んでいるという評価が高く、充実感を持っている。 ○教員が生徒に対し、熱心に取り組んでいることが理解され、保護者にも認識されている。 ●学校から発信された情報や進路に関する最新情報が保護者にあまり伝わっていない。 	
12 来年度に向けての改善方策案 家庭でも学校の話が頻繁に出て、その時々に進路のことが気軽に何度でも家庭で話せる雰囲気がつくれるように、啓蒙活動を推進する。 キャリアガイダンスを系統立てて実践し、保護者に対し、進路について実感を持って考えてもらう。		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成23年1月25日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の現場にいて、全てにおいて資格の時代だと痛感させられる。一層資格を取る指導をお願いしたい。 (第1回学校評議員会より) ・本校から毎年多くの就職者があるが、就職後3年以内の離職者が10名におよぶ進路先があるという事実が気になる。関係者として、学校と連携して定着率の向上に努めて行きたい。

※ 領域ごとに、1～2枚でまとめる。

※ 公表文書ということを踏まえ、具体的に分かりやすい表現で、簡潔にまとめる。

【別添2】(様式例2)

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 (記入上の注意)

岐阜県立〇〇高等学校

学校番号

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) (2) (3)	※ 領域・分野例 「教育課程・学習指導」「進路指導」「生徒指導(教育相談)」「特別活動」「保健管理」「安全管理」「組織運営」 「研修(資質向上の取組)」「教育目標・学校評価」「保護者、地域住民などとの連携」「情報提供」「教育環境整備」等 (注) 上記すべてについて作成する必要はない		
2 評価する領域・分野	◇			
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・	※ 学校評議員の意見や「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」の結果等を活用し、領域について現状分析をする。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇	※ 現状分析から明らかになった喫緊の学校課題を受けて、今年度、重点的に取り組む目標を設定する。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・	※ 喫緊の学校課題を解決するため、学校長がリーダーシップを発揮することができる学校組織マネジメントの活用。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) (2)	※ 県立学校リーダーズプランで実施する活動を記すことも可能。		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
				(1) (2)
				※ 数値目標に限定する必要はない。
8 取組状況・実践内容等	・	9 評価視点	10 評価	
※ 評価視点は、3～4項目を原則とする。 (例) 学校組織マネジメントが十分機能し、職員が組織的に取り組めたか。	① ② ③	※ 評価に当たっては、以下の基準を参考とする。 A：十分達成した B：おおむね達成した C：やや不十分 D：不十分	A B C D A B C D A B C D	
11 成果・課題	○ ○ ●	※ 成果と課題が明確に分かるように、工夫して書く。 ○→成果 ▲→課題		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案		※ 自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策(参考)留意する3つの観点：①手立て ②見通し ③根拠		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成 年 月 日

【意見・要望・評価等】

※ 学校関係者評価を実施する上で、必要な事務は学校が行い、学校関係者評価報告書(本紙)をとりまとめる。
 ※ 学校関係者評価委員会としての具体的な意見・要望なども記載する。
 ※ 学校関係者評価は、学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価することを基本とする。
 ◇具体例「自己評価の結果の内容が適切かどうか」「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか」「学校の重点目標や自己評価の評価項目などが適切かどうか」「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」等